

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071501086		
法人名	社会福祉法人 天光会		
事業所名	天光園グループホーム		
所在地	福岡県大牟田市大字宮崎1710-3 (電話) 0944-58-3035		
自己評価作成日	令和 4 年 12 月 23 日	評価結果確定日	令和 5 年 3 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然に囲まれた緑豊かな環境に立地しており、季節の変化を感じながら穏やかな生活を送って頂いています。コロナ禍で面会、外出に制限がかかる中、工夫を凝らした行事を行い、笑顔で過ごして頂けるよう努めております。入居者様お一人お一人のペースに合わせ、活動の範囲はご本人の自由にお任せし、見守りで安全と安心感を持って頂いております。また、ご家族様へは日々の生活をお手紙という形で安心をお届けしています。そして、医療機関の協力を得ながら健康面や認知症状の緩和に向け、全職員が意識して取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 5 年 2 月 21 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所周辺は交通量も少なく、各居室の掃き出し窓から広い芝生の庭が見渡せる等、のどかな環境に立地されている。地域住民から旬の野菜や生花のおすそ分けがある等関係性が保たれており、利用者が笑顔で楽しく過ごせるようレクリエーションなどの事業所内行事が計画的に実施されている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念5か条を掲げており、実践へと努めている。	事業所理念を実践するために、職員会議で折にふれて理念について話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お花やお漬物、野菜などを届けて頂き、地域との交流はサロンを設立し、協働関係は継続している。	イベントなどで地域と交流していたが、感染予防のため現在自粛している。高齢者の運動や花見のための場所や備品の貸し出しを行ったり、地域住民が育てた野菜や果物の差し入れがある等の交流がある。今後は、感染状況をみながら事業所内イベント、保育園児やハーモニカ演奏の慰問の受け入れも再開する予定である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	住民の方の困りごとを地域リーダー役の情報等、独居の方の問題点を把握しながら介護予防相談センターへの協力を得ている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防徹底の為、会議の開催は出来ていない。	利用者、家族、行政職員、地域住民代表者が構成員であるが、感染防止策として開催を自粛している。書面で入居状況、行事に関する項目を行政のみに報告している。	家族や地域の方と共に利用者の生活をよりよくするため、書面で意見を求める等構成員との意見交換について検討してほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情をお伝えし助言を頂いているが、積極性には欠けている。	管理者は市町村の担当者と日頃から介護保険制度に関する諸手続きや事故報告などについて連絡や相談をしている。台風や凍結による被害の可能性がある場合は、事前に行政から電話連絡があり対応について確認している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とまらない知識と意識を持ち、学びと実践を重視している。	身体拘束をしないケアに向けて基礎的知識や不適切なケアについて内部研修会を開催している。危険認識が乏しい利用者に対して、転倒リスク回避のために職員がすぐ駆けつけることができるよう家族へ同意を得て居室に人感センサーを設置している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターにより学習会を開催したことがあるが継続出来ていない。現在入居者様の利用はない。	成年後見制度に関するチラシを玄関近くに設置し、利用者家族にはタイミングを見て説明している。高齢者虐待防止に関する内部研修会の中で、成年後見制度について学習する機会を設けている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様への説明は分かりやすく丁寧な対応を心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の会話やご家族とのやり取りの中で言葉の内容を理解し、気持ちが少しでも寄り添えるように努めている。	利用者の意向により、テレビ視聴や裁縫、散歩等ゆったりと本人のペースに合わせて過ごせるよう支援に努めている。家族からは電話や面会時に要望を聞き取り、受診の送迎や携帯電話の所持等について運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内の管理者会議等で意見や相談の受け入れ等柔軟に対応してもらっている。職員のストレス回避にも同じように努めている。	管理者は会議で職員の意見を聴取し、運営に活かせるよう努めている。業務の流れや感染防止対策の物品の置き場所、レクリエーションの内容など、職員から出されたアイデアを実践している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を活用し、希望が持てる職場となるよう心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集採用に当たっては、年齢性別等を理由とする排除は行っていない。職員間でも業務の重圧な面を柔和に精神面でも軽減出来るよう関係性を大切にしている。	それぞれの職員が得意とする分野について、レクリエーション活動等で能力を発揮できるように担当者を選定し実践している。職員の心理面の健康にも配慮してストレスマネジメントに関する内部研修会も実施している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人は社会保険労務士による研修を予定している。職員個々の力を発揮できるような環境作りに努めている。	認知症高齢者の人権について内部研修会を開催し、さらに日頃から不適切なケアがないか確認している。また、感染症に関する差別や偏見が無いよう職員間で考え行動している。今後はあらゆる人権問題について学ぶ機会を設け、日々のケアに取り組む予定である。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため研修の開催や参加はほとんど出来ていなかったが、個々の能力が発揮できるような環境作りに努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため積極的な交流はあまり出来ていないが、各自が自主学習に取り組み得た情報等を職員間で共有している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の性格や認知症状の進行度を把握しながら、心配事などがお話しして頂けるように誠意をもった対応に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人やご家族の思いを取り入れ、信頼のある関係に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居されるに当たって健康面や精神面等の情報を聞き取りながら、環境が変わっても先ず必要なケアを察知し対応を心掛けている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	夜勤職員は「今夜一緒に泊まります」との言葉かけの配慮を行っており、共同生活の不安を払拭されるよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所としての目標でもあり、ご家族との関係性はより深く互いが持ち合う暖かい時間を過ごして頂くように努めている。現在は、コロナ禍でもあり、ガラス越しの面会とさせて頂いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本来であれば知人、親戚、孫等々ご家族以外にも多くの方が面会に来られていた。その時に面会者への認識がない時は職員が介入し援助する場面も多々あり、関係性を大切にしている。	利用者の生活歴や環境、嗜好などを情報収集し、職員間で共有している。職員は友人からの電話やガラス越しの面会を取り次いだり、利用者が馴染みのある神社やスーパー等への外出支援をしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	実家が同じ地域で顔馴染みであったり、コミュニケーションが取れにくい方でも、周囲の方が気配りされたりと和気あいあいとした場面が見受けられる。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に、電話等の繋がりがあご家族は複数おられ、ここ数年はコロナ禍で控えられているが、立ち寄られる等の親交は続いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の思いややりたい事の希望に添うケアに努めているが、困難と思われる時はカンファレンスやご家族への相談で思いが解決するように対応している。	職員は、利用者の思いや暮らし方等の希望について関心を持ち、利用者の行動や表情から汲み取り把握している。また、日々の関わりの中で、利用者に寄り添った会話を心がけている。関係者で利用者の視点に立って話し合い、その人らしい暮らしが出来るように支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「やりたい事 出来る事」を伝える力がある方には充実した支援に努め、意思疎通が困難な方にはコミュニケーションの中から察知し、ご家族からも情報を得ている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況や認知症の部分でも、その時の状況に応じた生活の援助に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な援助を見出しご家族の希望も取り入れ、個人と向き合い観察しながら課題に取り組んでいる。	利用者や家族の要望や関係者の意見等をもとにカンファレンスを行い、利用者主体の暮らしが出来るよう介護計画を作成している。また、6か月に1回、または利用者の状況の変化に応じて、随時介護計画を見直している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の申し送り時に特変等の把握に努め、ケアプランの評価の際、担当者会議の中で気づき、変化を活かすよう努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な受け入れに努めている。随時変化に対応して支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園児の歌やダンス、小学生の読み聞かせ、ハーモニカ演奏など、ボランティアの訪問がなくなり、地域の方は畑の花や野菜の差し入れを玄関先まで届けられコロナ禍でも気遣って頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居されるにあたって、これまでのかかりつけ医を継続して頂いている。また、専門医も必要な時はご家族と話し合いながら職員も同席している。	利用者と家族が希望する認知症専門医や眼科、歯科往診等の医療を受診できるよう支援している。通院介助は、原則家族が行っているが、状況に応じて柔軟に対応し、職員が付き添って受診を支援する場合もある。受診結果の情報は、家族と話し合い共有している。主治医との連絡体制を密にし、指示や助言を貰っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調異変の報告で受診の必要性がある時は相談を行っている。病院へは病状の相談や知りたい内容をお尋ねしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先医療連携室との情報交換を行い、当施設の退居期間の猶予をお知らせし、早期退院を伝達している。医療に関しては情報をしっかりと聞き取り、指導と指示を仰いでいる。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの支援は行っていないことを説明させて頂いている。	契約時に、看取りをしていない旨を説明している。事業所が対応し得る方針があるが、明文化していない。利用者や遠方からの家族の要望で、利用者と家族と一緒に過ごせるように宿泊の支援をする等、利用者や家族の思いに寄り添いながら支援に取り組んでいる。	事業所の対応方針について明文化することを期待する。
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特に夜間帯の事故対応の判断と応急手当は必須であり、救急手配等、法人と合同で研修を予定している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練に地域の参加を得た実績もあるが、現在実施していない。自然災害は身近な問題であり、全職員が避難方法を身につけることは急務である。	コロナ禍のため、近年は避難訓練を実施していないが、3月に実施する予定である。非常用食料・飲料水・備品については、事業所と隣接している地域交流センターに準備している。	3月に予定している避難訓練では、消防署と地域住民に協力や参加を呼びかけて実施してほしい。また、備蓄品については、事業所内に準備をしてほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念やケアプランに掲げており、全職員の共通認識としている。尊ぶ気持ちを大切に取り組んでいる。	利用者の人格を尊重し、プライバシーに配慮した言葉遣いや対応を心がけ、日頃の関わり方を注意し合っている。個人情報の重要性について理解に努め、秘密保持の徹底を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	これまでの生活や性格の把握に努め、利用者の安心と信頼関係を築くことで気持ちの表出や自己決定が出来るように配慮している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の気持ちやその方のペースに配慮し臨機応変に対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみとして化粧品を使用している方や髪の毛のセット等きれいに整えている。好みの洋服などを家族へ依頼したり、着替えをご本人に選んで頂くなど支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	セントラルキッチンからの栄養士さんや調理師さんによる献立であるが、味の面では皆様から好評である。皆様殆ど完食され食事を楽しみにされている。	利用者の好みの献立や味付けを取り入れ、器に拘り家庭的な雰囲気を提供している。利用者の家族や近隣からの差し入れの野菜を調理することもあり、利用者と職員は、同じテーブルで食べている。利用者の誕生日会や行事食（正月のお屠蘇・おせち）、手作りのおやつを提供する等、利用者が食事を楽しむことができるよう支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	セントラルキッチンからの栄養士による献立であり、健康面に配慮されている。毎日の食事や水分摂取量を確認しており、入居者様の体調面や好み等の把握に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、歯磨きや義歯洗浄など必要に応じ介助を行っている。また、希望により毎週歯科往診による口腔ケアを受けられる入居者様もいる。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じて排泄サインやリズムを見逃さずにトイレ誘導を行うようにしている。排泄の失敗した時も自尊心を傷つけない様、配慮して支援に努めている。	トイレの表示は、黄色で立体的に分かりやすく表示している。職員は、利用者の排泄パターンを把握し、さり気なく誘導している。介護用品の使用は、利用者や家族と相談しながら随時検討し、利用者がトイレで気持ちよく排泄できるように支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便周期を把握し、便秘の時には水分補給や腸の動きを良くする運動など働きかけている。主治医への相談にて内服薬の調整を行い、便秘が長引かないように支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴拒否をされる方は、時間や曜日の変更など対応を行っている。夜間帯の入浴希望者はいないため日中の入浴対応をしており、季節に合わせてゆず湯やしょうぶ湯などを楽しんで頂いている。	毎日お湯を沸かして、利用者の希望に柔軟に対応している。個別入浴希望の利用者にマンツーマン対応を行い、利用者と職員の語らいの場となっている。季節の菖蒲湯やゆず湯、香りのいい入浴剤等を使用し、無理強いはせず利用者が入浴を楽しめるように取り組んでいる。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣に合わせて日中休息されたり、就寝までテレビ視聴などゆっくり過ごされた後、好きな時間に入眠して頂いている。夜間良眠できるように日中の活動支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者が中心となり、処方内容、服薬時間等、全職員へ伝達、把握に努めている。処方内容変更時は、速やかに確認と伝達を行い、副作用等の状態観察に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割がある事で毎日の張り合いに繋げて頂いている。テーブル吹き、お盆吹き、洗濯たたみなど人のお役に立てることで充実感を得られている。一人一人の好みや能力に応じてパズル、塗り絵、読書、脳トレ等提供し、お盆拭きやテーブル拭き等、出来る事や達成感を持って頂いている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため人が集まる所の外出は控えている。天候や体調に応じて、気分転換にドライブや散歩の支援に努めている。	天気や利用者の体調や希望に応じて、散歩に出かけている。また、密を避けて、車椅子の利用者も一緒にドライブを行い、自宅の郵便物の確認や気分転換を図っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していない事の不安を訴える方もおられる。預り金を管理している旨お伝えし、安心して頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様より固定電話へ連絡があった時は本人様へ取り次いでいる。個人で携帯を所持されている方もおられ、家族との時間の支援に努めている。ご家族や知人様よりお手紙が届いた時は本人様へお渡ししている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間では障害物がないように危険防止に努めている。掃除や整理整頓、季節の飾りつけを行い、清潔も保っている。	共有空間は整理整頓に努め、利用者の動線に配慮した家具の配置をしている。利用者は、クラブ活動で花を活けたり、好きな読書をする等、思い思い過ごされている。また、季節の草花や手芸作品を飾り、家庭的な雰囲気居心地よく過ごせるよう配慮されている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごして頂いている。自室で過ごされる方やリビングのソファで談笑されたり新聞に目を通される方、一人一人が穏やかに過ごして頂ける空間作りに努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具を自宅より持参して頂いたり、家族写真を居室へ飾り安心して頂いている。ポーチや化粧品など使い慣れたものを使用して頂き、心地よく過ごして頂けるよう努めている。	居室の入口に表札が掛けられ、室内は、使い慣れた鏡台・タンス・テレビ等が持ち込まれ、敬老会の感謝状・利用者が作成した塗り絵が壁に貼られる等、利用者が安心して居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動される時は、安全面を配慮して手すりの使用など声掛けをしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
			○	④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
			○	③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が		
			○	② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		